

活用調査表

様式6

技術名 落石防護補強土壁工法	登録 No.
	18D1040

施工内容	
施工年度	平成26年度
発注機関	佐渡地域振興局地域整備部
工事名	防災安全(離島防災)落石防護補強土堤工事
施工地	佐渡市東強清水地内
施工数量	落石防護補強土堤L=67.0m

新技術の概要
 ジオロックウォールは、特殊繊維で補強した土の擁壁により落石や雪崩、ガケ崩れを防護する工法です。従来は、コンクリートの様な剛構造物で対応していました。このジオロックウォールは、土構造物特有の柔構造性を生かし、より効率よく衝撃を吸収できる構造であり、実験と解析から理論付けされた信頼性の高い工法です。

トライアル工事での評価結果

比較した従来技術	グラウンドアンカー工併用吹付法砕工	
項目	評価	評価内容
経済性	◎	本体工の費用は同等だが、仮設費および伐木等が不要なため、経済性に優れる。
工程	◎	法面工等の専門的な作業や仮設工が少なく、工程の短縮となる。
品質出来形	◎	部材が工場製作の一定品質で、現場での管理手間が減少。構造的な劣化がないので耐久性が向上。
安全性	○	法面内での施工よりも作業員の負担が少なく、転落や落下物によるリスクも減少。
施工性	◎	専門的な作業がなく、重機による繰返し作業のため施工性に優れる。
環境	○	発生土を有効利用でき、残材等も発生せず環境性に優れる。表面が植生され景観調和にも配慮。
その他		

◎: 優れている ○: やや優れている
 □: 従来技術と比べて同程度
 △: やや劣っている ×: 劣っている

活用上の留意点	今回のタイプでは、狭隘な箇所での適用は難しい。(事前に設計条件により適用タイプを選定)
---------	---

新技術問い合わせ先	
会社名	株式会社プロテックエンジニアリング
所属部課	技術開発部
担当者	西田陽一
TEL	025-278-1551

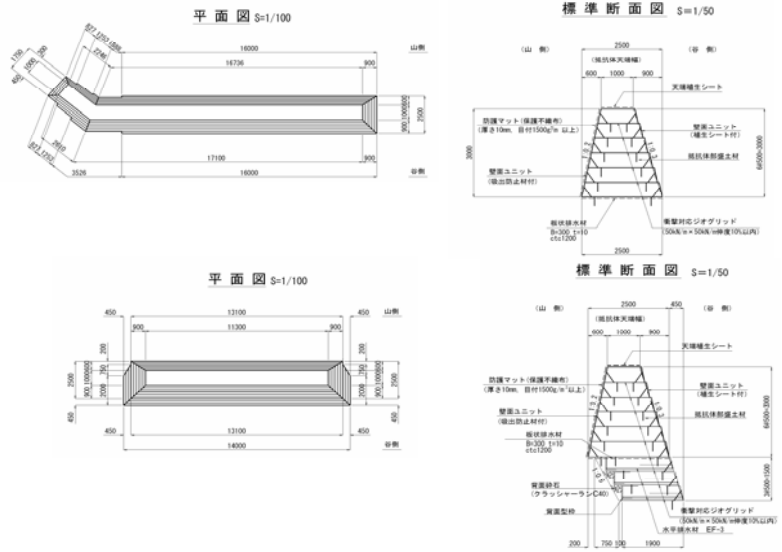


活用調査表

様式6

技術名 落石防護補強土壁工法(ジオロックウォール工法)	登録 No.
	18D1040

施工内容
工事名 : 平成19年度
 (主)佐渡一周線離島地域連携工事
 離県災防第0001-01-00-02号
施工数量 : 補強土落石防護擁壁
 H=3.0m L=34.0m
工期 : 平成19年度7月26日~145日間



概要
 ジオロックウォールは、特殊繊維で補強した土の擁壁により落石や雪崩、ガケ崩れを防護する工法です。このジオロックウォールは、土構造物特有の柔構造性を生かし、より効率よく衝撃を吸収できる構造であり、実験と解析から理論付けされた信頼性の高い工法です。

特徴
 ジオロックウォールは落石防護工法のすべての従来工法に比較して、「低価格」で「高エネルギーに対応可能」な工法です。構造物自体が植生可能な土構造物であり、建設発生土を利用できることから、環境にもやさしい土木工法です。

トライアル工事での評価結果

比較した従来技術: 落石防護コンクリート擁壁

項目	評価	評価内容
経済性	□	従来技術とほぼ同様であった。
工程	○	単一工種(土工)の繰り返し工程のため、工期が短縮となった。
品質	○	盛土工事のため、品質・出来形管理は容易である。気象変化により盛土材の密度管理に留意が必要。
安全性	□	クレーン作業が多くなるが、施工全体での安全性は従来技術と同様。
施工性	◎	仮設足場が不要となることと、単一工種(土工)での施工であるため施工性は良い。
環境	◎	盛土材に発生土を利用することと壁面が緑化されていることから環境面は従来技術より優れている。

◎: 優れている ○: やや優れている
 □: 従来技術と比べて同程度
 △: やや劣っている ×: 劣っている

新技術問い合わせ先

会社名 : 株式会社プロテックエンジニアリング
 所属部課: 防災設計部
 担当者 : 野田 浩章
 TEL : 025-278-1551

